

平成 26 年度

北 区 学 校 フ ァ ミ リ ー
事 業 報 告 書

東 京 都 北 区 教 育 委 員 会

はじめに

北区教育委員会 教育長 内田 隆

北区は、平成15年度に「北区学校ファミリー構想」を策定し、他区に先駆けて、小中連携教育を推進してきました。

その成果を踏まえ、平成20年度には「小中一貫教育基本方針」を策定し、モデル事業を経て、平成24年度から「学校ファミリーを基盤とした北区の小中一貫教育」を全校で実施しています。

今年度は、その成果を検証し課題を把握するとともに、より一層の改善・充実に向けて検討を行い、「北区小中一貫教育検証委員会報告書～北区における小中一貫教育の更なる充実に向けて～」(平成26年10月 北区小中一貫教育検証委員会)にまとめました。

主な成果としては、①9年間の学習カリキュラムを一貫させ、併せて「保幼小接続期カリキュラム」の活用を図り、サブファミリーごとに様々な交流や連携を進めることにより、児童・生徒については中1ギャップの緩和や不安解消、自己肯定感の向上などの成果が確認できた。②学校及び教員については異校種間の教員同士の相互理解と児童生徒理解が深まり、小・中の系統性を意識した授業の推進が図られた。③各サブファミリーでは、道徳教育や防災教育、NIE活動などの特色ある学習活動も行われるようになった。の3点が挙げられています。しかし、一方で、小中一貫教育を進めるにあたり、学校と教員の事務的な負担が増加しており、時間の確保や役割や責任の明確化、負担の解消などが課題となっています。

本事業報告書では、各サブファミリーにおける1年間の交流・連携活動の状況と、「学校ファミリーを基盤とした小中一貫教育」の具体的な推進状況が記されています。今後、それぞれのサブファミリーにおいて、推進の一助として活用してほしいと願っています。

さて、平成27年3月に策定される『北区教育ビジョン2015』では、重点施策のトップに「地域と一体となった教育の推進」を掲げ、「サブファミリーによる特色ある教育の推進」「就学前教育・保育の充実」「将来を見据えた小中一貫教育の推進」を図るとともに、小中一貫教育の牽引役としての小中一貫教育校(仮称)の検討や、認定こども園の設置検討を行ってまいります。

今後、北区教育委員会は、0歳から義務教育終了までの一貫した子どもの育ち・学びの系統性・連続性を踏まえた教育・保育事業をより一体的に展開してまいります。

関係者の皆さまには、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

目 次

I サブファミリー事業報告

王子桜中・王子小・東十条小・さくらだ幼	1
十条富士見中・王子第二小・王子第三小・王子第五小・荒川小・十条台小 ・じゅうじょうなかはら幼	3
明桜中・王子第一小・豊川小・柳田小・としま若葉小	5
堀船中・堀船小・滝野川第五小・ほりふな幼	7
稲付中・清水小・第三岩淵小・梅木小・うめのき幼	9
赤羽岩淵中・赤羽小・岩淵小・なでしこ小・第四岩淵小	11
桐ヶ丘中・桐ヶ丘郷小・袋小・八幡小・赤羽台西小・ふくろ幼	13
神谷中・神谷小・稲田小	15
浮間中・浮間小・西浮間小	17
田端中・滝野川第四小・田端小	19
滝野川紅葉中・滝野川第二小・滝野川第三小・滝野川第六小・谷端小・紅葉小 ・たきさん幼	21
飛鳥中・滝野川小・西ヶ原小	23

II 参考資料

北区学校ファミリー構想概要	25
---------------	----

王子桜中サブファミリー（王子桜中・王子小・東十条小・さくらだ幼）

1. 交流・連携の方向性

- (1) 研究主題 平成24年度～平成26年度 北区教育委員会研究指定校
「自分らしい生き方を実現していく幼小中のつながり」
～NIEを取り入れた、生きる力を育む幼小中一貫教育～
- (2) 研究の内容と方法
- 中1ギャップや小1プロブレムを解消するために円滑な接続を図ることを目的とし、幼小中一貫の授業（保育含む）スタイルづくりを目指す。
 - 授業スタイルづくりを3校1園によるNIE教育をベースとし、研究を推進する。
 - 育てたい子供像「自己肯定感の高い子供」を具現化するため、「知・徳・体」の3つの分野を8つのチーム（教科・領域ごとの8分科会）に分け、研究を推進する。
 - 平成27年1月30日（金）に研究発表会を行い、研究に対する成果と課題を検証・分析、考察し、27年度以降の幼小中一貫教育の更なる充実に生かす。

2. 具体的な活動

- (1) サブファミリー運営委員会
- ① 5/2 王子桜中 26年度の事業方針確認、研修内容検討
 - ② 27.3/11 王子桜中 1年間の反省、来年度の活動内容検討
- (2) 幼小中合同研修会
- ① 5/7 王子小 幼小中合同研修会、全体会・分科会、研究推進委員会
 - ② 6/11 王子小 幼小中合同研修会、分科会（指導案検討）、研究推進委員会
 - ③ 6/25 王子小 学校ファミリーの日（公開授業）、分科会（研究協議）研究推進委員会
 - ④ 8/28 東十条小 幼小中合同研修会、全体会・分科会（指導案検討）研究推進委員会
 - ⑤ 9/10 東十条小 学校ファミリーの日（公開授業）、分科会（研究協議）研究推進委員会
 - ⑥ 11/19 王子小・王子桜中 幼小中合同研修会、分科会（指導案検討）研究推進委員会
 - ⑦ 12/17 王子小・王子桜中 幼小中合同研修会、分科会（指導案検討）研究推進委員会（12/24 27.1/9 1/28 1/30 3/11 も実施）
 - ⑧ 12/24 王子小・王子桜中 幼小中合同研修会、分科会（指導案検討）
 - ⑨ 27.1/9 王子小・王子桜中 幼小中合同研修会、分科会（指導案検討）
 - ⑩ 1/28 本発表会最終リハーサル
 - ⑪ 1/30 研究本発表会（学校ファミリーの日）講演会
 - ⑫ 3/11 王子桜中 幼小中合同研修会、分科会（1年間の反省、次年度）

(3) 研究発表会（本発表）

1月30日（金） 会場：王子桜中・王子小学校

各分科会公開授業・各分科会ブース発表・全体発表会・講演会

演題（「今だから、新聞」～新聞社が語るメディアの使命～

朝日新聞社 教育コーディネーター 一色 清氏）

(4) その他の交流活動

○中学校体育祭への小学生、幼稚園児の参加（王子桜中サブファミリー全体）

○避難訓練・引き渡し訓練の合同実施（王子桜中・王子小）

○幼稚園児と児童の交流（小・さくらだ幼稚園）

○中学生職場体験学習受け入れ（5日間）（王子桜中サブファミリー全体）

○中学校生徒会と小学校代表委員会の意見交換会（王子桜中・王子小・東十条小）

○中学校体験入学（王子桜中・王子小・東十条小）

○小中学生主張体験発表会（青少年東十条地区委員会主催）



幼小交流給食



小中合同連陸記録会練習



新聞タイム（NIE）

3. 成果と工夫した点

成果として（3年間の研究を通して）

○幼小中の保育、学習指導の相互理解と授業スタイルづくりを、研究保育・授業研究を通して進めたことで、つながりを意識した教材開発、教具の工夫、学習形態の工夫を学び合うことができた。

○NIEを幼小中の学びのつながりのベースとして位置付け、取り組んだことにより、児童・生徒の言語能力の大きな伸びにつなげることができた。

○教員間で幼・小・中それぞれの段階の学習指導で区切りを付けるのではなく、11年間を通して指導をするという共通認識と意識のつながりができた。

工夫した点

○特定公開フォルダを大いに活用し、学習指導案や紀要の原稿を入れることによりサブファミリー内の教員が常に最新の情報や進捗状況を知ることができた。

4. 課題と改善の方向性

本研究は分科会形式で実践してきたため、できるだけ各分科会の研究経過や成果を全員で共有できるようにした。次年度以降も研究成果を確実に継承・発展できるように4校園の連携をさらに緊密にし、幼小中一貫教育の体制づくりを進めていく。

十条富士見中サブファミリー

(十条富士見中・王子第二小・王子第三小・王子第五小・荒川小・十条台小・じゅうじょうなかはら幼稚園)

1. 交流・連携の方向性

幼稚園・小学校・中学校の幼児・児童・生徒の発達の連続性を配慮し、小中学校カリキュラム作成し、学習指導案検討会を充実し、基礎学力の定着や生活指導の情報交換会を行う。また、7分科会とし、講師を招聘して小中学校の一貫教育について研修をする。

- (1) 学校ファミリーの取り組みの柱を「言語活動の充実」とする。
- (2) 幼小中学校の教員間の教育交流と情報交換（年4回）
 - ①小中学校の一貫カリキュラム完全実施し、学習指導案検討・研究授業の実施
 - ②小中学校の生活指導の情報交換会
- (3) 園児・児童・生徒の、幼小中学校の交流学习を行う。さらに地域の行事を活用した連携の推進に取り組む。

2. 具体的な活動

- (1) 調整や話し合いの実施
 - ・ 校園長連絡会（年度当初、年度末に計2回）
 - ・ 運営委員会（教務主任または担当）（年4回）
 - ・ 必要に応じて教員連絡会を設定
 - ・ 養護教諭連絡会（年1回）
- (2) サブファミリー全体での活動
 - ・ 新一年情報交換会 6月5日（木）15：30～ 於：十条富士見中学校
 - ・ 第1回研究授業 6月26日（水）13：40～ 於：荒川小学校
 - ・ 第2回研究授業 9月10日（水）13：40～ 於：十条富士見中学校
 - ・ つまづき0プラン検討会 12月18日（木）15：30～ 於： 〃
 - ・ 第3回研究授業 1月21日（水）13：40～ 於：王子第五小学校
 - ・ 各小学校において、幼保小の交流給食事業の実施や園児の凧揚げ大会
 - ・ 中学生の職場体験の各小学校への受け入れ
 - ・ 中学生による陸上競技指導
 - ・ 小学生の中学校体験入学
- (3) 「学校ファミリーの日」の研究授業

第1回 研究授業 於：荒川小学校 13：40～ 協議会 14：45～				
分科会	教科	年組	単 元 名	授 業 者
1	国語	1－2	どうやってみをまもるのかな	関 康子
2	社会	4－1	くらしをささえる水	羽毛田久美子
3	算数	2－1	100より大きな数をしらべよう	利根澤 尚
4	体育	3－1	毎日の生活と健康[保健]	猪塚 勝俊
5	図工	6－1	彫って、削って、うまれた形	高橋 孝子
6	外国語	5－1	30たす5はいくつ	中島 有加里

第2回 研究授業 於：十条富士見中学校 13：40～ 協議会 14：45～				
分科会	教科	年組	単元名	授業者
1	国語	2-4	五重塔はなぜ倒れないか	林 曜子
2	社会	1-3	世界の住居・衣服の変化	細萱 仁志
3	算数	3-3 4	2次方程式の利用	島田 正義(少人数)
4	理科	1-2	身のまわりの物質とその性質	山本 浩美
5	美術	3-2	観賞「琳派を知る」～風神雷神図屏風を中心に～	須藤 美穂
6	音楽	2-3	速度や強弱の変化を生かして、多彩な表現を工夫して歌おう	貴堂 昌子
7	英語	1-1	<i>Our New Friend from India</i>	古谷 ちひろ

第3回 研究授業 於：王子第五小学校 13：40～ 協議会 14：45～				
分科会	教科	年組	単元名	授業者
1	国語	1-1	はがぬけたらどうするの	小林 修代
2	社会	3-1	くらしのどうぐ	三ツ矢 和仁
3	算数	5-1	分数のかけ算とわり算	久場妙子 三島彩香
4	理科	4-1	物のあたたまり方	坂巻 博美
		6-1	電気とわたしたちのくらし	近藤眞由美
5	体育	6-2	体づくり運動	濱田 圭悟
6	音楽	2-1	たがいの音をきこう	杉田里絵
7	外国語	1-2	果物(2) これはバナナだよ	堀 裕樹

【全体会】 ・講師による指導 ・東京家政大学准教授 宮 絢子 先生 (国語)
 ・理科教育アドバイザー 林 四郎 先生 (理科)
 ・文京区立駕籠町小学校校長 宍戸敏和 先生 (体育)
 ・外国語教育アドバイザー 片山知子 先生 (英語)

3. 成果と工夫した点

教科をもとに、分科会を7つ設置し、専門性の向上を図ることができた。小中一貫教育カリキュラムをもとに学習指導案の検討が行われ、単元の系統性や指導法について深めることができた。

言語活動の重要性について、第3回(王五小)において提案がありサブファミリー全体として学ぶことができた。

研修会については、分科会ごとに研究授業後には、研究協議会で講師の先生方に講演をいただいたことは、教員にとって指導方法において大変な収穫があった。

4. 課題と改善の方向性

つまずき0プラン検討会で示された課題「中一ギャップ」の解消を進め、より円滑な小中一貫教育を進めることが課題である。

幼小中学校7校園で研修を進めてきたが、7分科会の中で小中一貫カリキュラムの幼稚園の活動としてどのように取り組めばよいか今後の課題となる。

サブファミリー運営委員会を中心とした連携強化を図る。

明桜中サブファミリー(明桜中・王子第一小・豊川小・柳田小・としま若葉小)

1. 連携の方向性

(1) 研究主題

～児童生徒の学習意欲を育てる小中一貫教育～

(2) 研究の内容と方法

- ① 中1ギャップを解消するための円滑な接続を図ることを目的として、生活上の課題を設定し課題解決に向けた小中一貫した方策を考えていく。
- ② 学習指導の連携を中心に取り組み、その取り組みを通して授業規律やマナー、あいさつなどの生活指導上の連携にもつなげていく。
- ③ 学校サブファミリーの視点に立ち、物理的に距離の離れた学校間の無理のない連携を重視した研究を行う。
- ④ 育てたい子供像を具現化するために「知・徳・体」の3つの分野を12の分科会に分け、研究を進める。

明桜中 S F 共通の
のぼり旗(青色)

2. 具体的な活動

(1) 日時・会場・活動内容

- ① 4月24日(木) 15:30～明桜中 運営委員会
・組織づくり ※運営委員会は、校長・副校長・各校の SF 担当者
・今年度の活動方針と計画を確認、全体会の仕事分担
- ② 5月2日(火) 15:00～明桜中、全体会
・平成 26年度 明桜中SFの活動説明
・授業研究分科会顔合わせ、役割分担
- ③ 6月10日(火) 15:00～ 明桜中、分科会別協議会
・授業内容打ち合わせ(指導案検討、授業者決定、TTの関わり方等)
・運営委員会(連携研究授業の最終確認、9月の学校ファミリーの日の検討)
- ④ 6月25日(水) 13:45～ 明桜中 連携授業(実施後分科会ごとに協議会)
- ⑤ 8月28日(木) 10:00～ 豊川小 運営委員会(9月の企画、分担、準備)
- ⑥ 9月17日(水) 13:45～ 豊川小 授業観察(情報教育に関する)
・生活指導に関わるテーマ別グループ協議
・運営委員会(協議会記録整理、12月授業研究へ向けての役割分担)
- ⑦ 12月11日(水) 15:00～柳田・とし若・豊川小 **【明桜中(薄緑)】**
・分科会別協議会、授業内容打ち合わせ おはようで 一日のスタートダッシュを切ろう!
- ⑧ 12月22日(月) 13:45～柳田・とし若・豊川小 **【王子一小(黄)】**
・連携授業実施(実施後分科会ごとに協議会) たのしい一日は あいさつから
・つまずきゼロプランをもとに学力向上委員会で検討 **【豊川小(ピンク)】**
- ⑨ 2月5日(木) 15:30～明桜中 運営委員会 あいさつは ころところを つなぐもの
・1年間の反省、来年度の活動内容の検討など **【柳田小(薄緑)】**
- ⑩ 2月20日(金) 15:00～明桜中 全体会 百人で 千人分の 声を出そう!
・各分科会より今年度の研究の成果と課題を報告 **【としま若葉小(薄緑)】**
・運営委員会から次年度の活動方針と計画を確認 太陽のように 明るく元気に あいさつ



(2)分科会での協議内容のまとめ

① 授業の指導・工夫等について

- ・小中での児童生徒の活動や意見を引き出す工夫について、意見交換をしていく機会を増やしていく。授業の始めにねらいと見通しをもたせるようにする。
- ・ファミリーを生かし、小中をはじめ各校の指導案・指導計画や評価、教材などの財産を共有できるとよい。

② 生活指導に関わる課題について

- ・授業に取り組む態度は小学校での定着が望ましく、中学での学習姿勢にも大きく関わってくる。チャイム着席や教室移動・始業のあいさつなど、授業規律の定着が小中共通の課題である。
- ・時間を守ることにについては、各校ともよく取り組んでいることが分かった。
- ・高学年になるほどあいさつができない（中学では1年生が一番できる・普段はあいさつしない生徒も部活中ではできる）。学校での取り組みだけでなく、家庭でもあいさつは当然という意識を育てたい。
- ・横のつながりが見えない家庭は、対応が難しい。保護者同士でコミュニケーションをとっていると、学校との共通理解が深まる。

3. 成果と工夫した点

(1)【教科指導面での連携について】

小・中学校の研究授業と協議会を通して、児童・生徒の発達段階による理解度とその指導法についての相違を知る機会となった。各教科で、とくにグループ学習など、児童・生徒の活動場面についての相互理解が進められた。また、習熟度別指導とその評価やALTの活用についての意見も交わされた。授業規律については、小中共通の課題であり、生活指導面でのあいさつ等の連携をとともに取り組んでいく。

(2)【生活指導面での連携について】

前年度から指摘されていたファミリー内における生活指導上の課題を踏まえ、今年度の明桜中SFでの生活指導における重点課題を「あいさつの定着」とし、「明桜中SFあいさつプロジェクト」を立ち上げた。プロジェクト名は、生徒会&各小学校児童会代表者による話し合いで「ニコスマプロジェクト」と命名された。また、のぼり旗（明桜中学校サブファミリーの共通・各校独自のもの）を作成し各校の校門に掲げ、毎朝のあいさつ運動に向けた児童・生徒の意識の向上を図った。次年度以降も、共通取組を検討し、全サブファミリー校で共通実践していく。

4. 課題と改善の方向性

来年度は、小中一貫の共通した取り組みの重点を「キャリア教育」とし、これまでの明桜サブファミリーでの成果をもとに「生き方・在り方」にかかわる教育の充実を目指していく。また、現在、取り組んでいる生活指導（あいさつ運動）・学習指導（授業交流）についても引き続き取り組んでいく。

具体的には、9月に予定しているキャリア教育に関する研究授業に向け、明桜SFの小中一貫した学びのつながりを意識した取り組みを進めていく。

堀船中サブファミリー(堀船中・堀船小・滝野川第五小・ほりふな幼)

1 交流・連携の方向性

本サブファミリーの「育てたい子ども像」は、幼小中の連続した教育を目的とし、「知育」分野では「基礎学力を身に付け、自ら考える子」、「徳育」分野では「思いやりの心をもったやさしい子」、「体育」分野では「ねばり強く、最後までがんばる、げんきな子」を目指すことである。その上で、健全育成を図るとともに、学習内容の連続性を意識し効果的な学習を模索する。また、園児・児童・生徒の交流の機会をもち、地域との連携も図る。

2 具体的な活動

(1)調整や話し合い

昨年度の2月14日(金)、副校長と教務主任が堀船中学校に集まり、平成26年度の年間行事、土曜授業、参観日・学校公開日等の予定をすり合わせるとともに、ファミリー行事の日程調整と内容の確認を行った。また、平成26年度の組織体制、年間活動内容、授業交流の方針、分科会の進め方、小中一貫教育情報交換の進め方も確認した。

(2)サブファミリー全体での活動

① 6月25日(水)「北区学校ファミリーの日 第1回幼小中合同研修会」

・会場 堀船小学校

・生活科(1年)、道徳(2年)、音楽(3年)、国語・体育(5年)、算数(6年)

「知育分科会」講師 川島瑞穂氏(東京都教職員研修センター教授)

「徳育分科会」講師 川上彰久氏(帝京科学大学教職センター教職アドバイザー)

「体育分科会」講師 稲田利隆氏(元北区立柳田小学校長)

・国語、算数・数学、英語・外国語活動(知育)、心の教育、芸術表現(徳育)、体育、特別支援(体育)の3つの分科会に分かれ、幼小連携などの熱心な取り組みがなされた。今後、小中合同の学習指導案検討の時間をできるだけ多くとることを再確認した。

② 夏休み地域巡検 7月28日(月)読売プリントメディア、梶原船つき場跡、レンガ工場跡、船方神社の幼小中合同で実施した。

③ 夏季講演会 8月27日(水)昭和町区民センターにて、女子美術大学名誉教授榮隆男氏を招いて幼小中の保護者も含めて講演会を実施した。

④ 9月10日(水)「北区学校ファミリーの日第2回幼小中合同研修会」

・会場 堀船中学校

・数学・英語(1年)、道徳(2年)、体育(3年)

「知育分科会」講師 福岡由美子氏(前教職員研修センター教授)

「徳育分科会」講師 橋本由愛子氏(元世田谷区立弦巻中学校長)

「体育分科会」講師 伊田周平氏(元北区立紅葉小学校長)

・堀船中学校が大変落ち着き、生徒の授業態度、挨拶など素晴らしいとお褒めの言葉をいただいた。小学校の教師がT2、T3として指導しやすい指導計画をたてること、さらに学力向上に向けた授業改善をしていくことが今後の課題であることを改めて確認した。

⑤ 「第34回少年の主張発表大会、あいさつ運動表彰」10月18日(土)堀船中にて実施した。

⑥ 1月21日(水)「北区学校ファミリーの日 第3回幼小中合同研修会」

・会場 滝野川第五小学校

- ・道徳(1年)、国語(2年)、算数(3年)、体育(4年)、国語(5年)、図工 (6年)
- 「知育分科会」講師 川島瑞穂氏(東京都教職員研修センター教授)
- 「徳育分科会」講師 川上彰久氏(帝京科学大学教職センター教職アドバイザー)
- 「体育分科会」講師 稲田利隆氏(元北区立柳田小学校長)

多くの授業実践をみる事が出来き、小学校教諭の教材研究への情熱を改めて感じた。中学校のカリキュラムとの関わりも明確にしていかなければならないことを確認した。

3 成果と工夫した点

各校で研究授業を行うにあたり、小中の連携を意識して連絡を取り合い指導案検討をする動きができてきたこと。また「夏休み地域巡検」や「夏季講演会」、「第34回少年の主張発表大会、あいさつ運動表彰式」を通して、幼小中の教員間交流もさらに深まったことは大きな成果である。また、年間を通して7分科会の小中一貫教育情報交換を行ったことで、各教科・領域における連続性、問題点、工夫している点などを話し合うことができた。

4 課題と改善の方向性

まだ、分科会ごとに時間を確保して指導案検討を行い、幼小中の異校種の教員が互いにT1・T2となり授業をしていくことが十分にできていない現状があり、課題である。改善策として、ファミリーの研修のテーマをより明確にするとともに、組織の再編成をおこない、1年間を通して同じメンバーによって授業検証をしていく。また、つまずきゼロプランの小中の資料を意図的に活用しながら、中一ギャップの解消に努めていく。



研究分科会 (徳育分科会)

研究授業 (道徳)



堀中ファミリー夏休み地域巡検 読売プリントメディア～船方神社

稲付中サブファミリー（稲付中・清水小・第三岩淵小・梅木小・うめのき幼）

1 交流・連携の方向性

平成23年度に各学校の教育目標を持ち寄って稲付中サブファミリーとして目指す幼児児童生徒の姿を設定した。平成26年度の連携の方向性は、その実現に向けて教育活動をさらに連携・推進することであった。特にこの数年間は、教科分科会を中心に幼小中連携授業に取り組み、幼小中の滑らかな学びの連続性の深化が図れるよう授業実践、協議・検討を進めている。今後も、幼小中の教員が継続的に連携・協働を進め、幼小中の教育内容の相互理解、教員の指導力の向上、小1問題、中1ギャップ等の課題の解消に努めていく。

また、今年度は新しく、稲付中サブファミリー4校が、東京都より指定された「オリンピック・パラリンピック教育推進校」の研究・実践にも協力して取り組んだ。

2 具体的な活動

(1) 稲付中サブファミリー組織構成

小中一貫教育担当校長 稲中校長 小代表校長(梅木小)		
運営委員会 全校長・全副校長・幼運営主任・各校担当主幹(主任) (必要に応じ、SF運営アドバイザー・指導主事・教育相談員他)		
授業研究部会 各分科会チーフ	国語・社会・算数数学・理科・音楽・図工美術 保健体育・外国語活動英語・道徳・健康 10分科会	
稲付中学校 梅木小学校	第三岩淵小学校 うめのき幼稚園	清水小学校

(2) サブファミリー全体での活動（年間計画）

実施日	会場	取組	内容
5月13日 (火)	稲付中学校	運営委員会①	組織編成・年間計画
6月25日 (水)	第三岩淵 小学校	授業参観 運営委員会②	研究参観・協議、全体会、分科会
8月28日 (木)	稲付中学校	連携授業協議会	連携授業に向けての指導案検討
9月10日 (水)	稲付中学校	連携授業 運営委員会③	教科分科会ごとに連携授業 研究協議会
12月22日 (月)	各小学校	連携授業協議会	連携授業に向けての指導案検討
1月21日 (水)	梅木小学校 清水小学校	授業研究分科会	教科分科会の連携授業, 研究協議会 研究のまとめ(成果と課題)
3月9日 (月)	稲付中学校	全体会・報告会 運営委員会④	各分科会報告、次年度へ向けて 次年度計画に向けて

ファミリーの日の授業風景



3 成果と工夫した点

- (1) 9月と1月のファミリーの日には、研究授業日の前に授業研究分科会を設定した。その結果、幼小中の教員が、分科会協議を通して互いの経験や知識・技能、思いを伝えながら教材研究を進め、一つの授業をつくり上げることができた。
- (2) 昨年度に引き続き、ファミリーの日3回全てで授業研究を実施した。授業の後に分科会（3回）を設定したことで、北区小中一貫カリキュラムを基に各教科で授業の振り返りや内容の改善について活発に協議することができた。
- (3) 特定公開フォルダ〈稲付中サブファミリー〉の活用により、研究授業の学習指導案検討をウェブ上で行うなど、分科会運営の効率化を図ることができた。また、フォルダを分けて、写真・文書・資料等のデータの管理を行ったことで、事務処理や文書作成の効率化が進んだ。
- (4) オリンピック・パラリンピック教育推進校として、サブファミリー間での連携をとりながら、稲付中学校での「1日オリンピック校長」や、小学校3校合同水泳記録会「オリンピックと泳ごう」等の実践を積み重ねることができた。

4 課題と改善の方向性

- (1) 授業研究での課題と改善
 - ① 昨年同様1回目のファミリーの日には、小学校の授業を参観する機会を設定した。授業後、各分科会が協議会で話し合った内容の共有化を図るために、協議会記録を特定公開フォルダに格納し、各自で閲覧する形をとった。しかし、閲覧状況の確認が難しいため、分科会間の情報共有がどの程度進んでいるかを確認することができなかった。次年度は、全体会での分科会発表を検討するなど、更なる工夫を行い、改善を進める。
 - ② 昨年度の反省を生かし、2回目・3回目の連携授業について、事前授業検討日を予め設定し、年間計画に示した。これにより、どの分科会も計画的に事前検討や授業準備を進めることができた。
- (2) 研究推進についての課題と改善
オリンピック・パラリンピック教育推進校、2020年東京オリンピック・パラリンピック応援プロジェクトの施策に、稲付中SFとして1年間取り組んできたことを整理し、今年度実施した活動の更なる充実を進めるとともに、連携・協力を深めて新たな取り組みの開発を行っていく。

赤羽岩淵中サブファミリー

(赤羽岩淵中・赤羽小・岩淵小・なでしこ小・第四岩淵小)

1. 連携・交流の方向性

本年度は、昨年まで進めてきた10の教科領域分科会を統合し、5つの小中合同分科会で研究協議を進める。また、防災教育小中一貫年間指導計画を策定し、それに基づく防災授業や訓練を実施する。小中合同引き取り訓練や地域総合防災訓練など、保護者・地域と連携した小中一貫型防災教育を推進する。

(26年度の組織)

○教科分科会（各教科・領域）

- ・①国語、図画工作・美術、技術家庭分科会、②社会、体育・保健体育分科会、③算数・数学、養護分科会、④理科、英語・外国語活動分科会⑤音楽、特別支援分科会の5分科会で、年間3回の授業研究とそれに先立つ3回の指導案検討会を行った。

○防災委員会（各校校長、生活指導主任）

- ・北区教育ビジョン2015 サブファミリーによる特色ある教育の推進に鑑み、地域と一体になった防災教育の策定並びに先駆けとなることを目指し、検証・改善の実践的な取り組みの出来る組織として防災教育に取り組んだ。

2. 今年度の具体的な活動

《赤羽岩淵中学校ファミリー 26年度の活動一覧》

部 会	4/30(水) 15:30~	6/19(木) 15:30~	6/25(水) 13:45~	8月28日(木) 10:00~	9月10日(水) 13:45~	12月19日(金) 15:30~	1月21日(水) 13:45~
	全体会 教科部会	指導案検討	研究授業 協議会	講演会 防災指導案検討	防災研究授業 協議会	指導案検討	研究授業 協議会
国語 図画工作・美術、 技術・家庭	赤羽 岩淵 中 学 校	岩淵小学校	岩淵小(図工) 高橋潤子先生	赤羽 岩淵 中 学 校 (十 時 開 始 — 体 育 館 —)	赤羽 小 学 校	赤羽 岩淵 中 学 校	赤岩中(国語) 1年4組 旭喜美子先生
社会、 体育・保健体育		なでしこ小学校	なで小(社会) 野々村麻奈先生				赤岩中(保体) 2年1,2組 春田岳広先生
算数・数学、 養護		なでしこ小学校	なで小(算数) 藤原貴子先生				赤岩中(数学) 1年1組 伊藤貴之先生
理科、英語・ 外国語活動		第四岩淵小学校 (会場)	四岩小(理科) 梶田みゆき先生				(英語)1年4組 渡邊・藤井先生
音楽、特別支援		第四岩淵小学校	四岩小(音楽) 柏崎あゆみ先生				赤岩(特支)阿久津裕富子先生
運営委員会 防災委員会	赤岩中	【運営】岩淵小 【防災】なで小	【運営】岩淵小 【防災】なで小	【防災のみ】	【防災のみ】 赤羽小	赤岩中	赤岩中

(1) サブファミリー推進委員会

ファミリー校の副校長、教務主任により、組織づくり・年間計画・毎回の活動報告を行った。

(2) サブファミリーでの活動

4月30日(水) 第1回サブファミリー全体会(第1回運営委員会、防災委員会)

○活動計画(研究の進め方、今年度の活動計画と・組織づくり)

6月19日(木) 教科部会(第2回運営委員会・防災委員会)

※ 8/28(木)は赤羽岩淵中学校で、「首都直下地震による被害状況と地域での備え」をテーマに、慶應義塾大学環境情報学部准教授の大木聖子先生を講師として招聘し、職員・地域対象の講演会を実施した。

3. 成果と工夫した点

①今年度は、25年度の成果と反省を生かし「教科領域の小中合同研究協議会」の形は残しながら、5つの教科領域部会に統合し教科領域指導の連携を深めた。

②防災委員会の検討内容及び各校の実施事項

	26年度の内容	27年度に向けて
合同引き取り訓練	①保護者アンケートと教職員の反省を集約 ⇒アンケート集計と分析（冊子参照） ②数年内に近隣幼稚園・保育園を含む引き取り訓練に拡大していく必要性が話題になる。 ③引き取り者の動線確認や登下校時の経路の安全確認励行をさらに呼びかけていくことを確認。 ④引き取りカードの持ち寄りと検討。	①保護者アンケート等の分析から改善策等を検討し、SF内で共有化の上、具体的な指導に活かす。 ②27年度に5校の改善点を活かして実施し、それを踏まえて拡大していく。 ③各校での啓発を工夫し実施。その際、交通機関に関してSFとして再考する。 ④引き取りカードの検討継続。
防災年間指導計画	①5校毎に作成した内容のすり合わせを実施。 ②年間を通して実践したことをもとに、手直し。 ③各小学校・中学校の年間指導計画を合わせ、小中一貫の防災指導計画案を策定。 ⇒調整の上、年度内に冊子に組み込む。	○防災年間指導計画を活かして、実践。実践結果をもとに加除訂正し、よりよいものに改定していく。
安全教育・防災授業	①赤小でのSF防災授業の振り返りと確認。▼▼ ②各校の実践内容を指導案として持ち寄り、確認。▼▼ ③防災年間指導計画と実践例の確認。▼▼ ④各校別ショート訓練の実施 ▼▼⇒現在、ポータル内に実践例を保管。調整の上、年度内に冊子に組み込む。	①冊子内の実践例を参考に、各学級等で防災授業の実施。実践結果をもとに加除訂正し、よりよいものに改定していく。 ②防災研究授業（位置づけを検討）
地域との合同防災訓練	①各校ごとに実施。 ②各校の取り組みについて、実施案と取り組み状況の情報共有化。 ③地域による取り組み方等の違いを共有化 ④消防署・消防団・防災課・日赤・各自治会等との連携継続を確認。	①各校の地域の状況を踏まえて、継続実施。▼▼ ②(なでしこ小の地域住民とともに実施した一時避難所から避難所開設訓練実施までを参考に、各校ごとに取り組みを拡大。やがて、SF内合同の避難訓練並びに避難所開設訓練が望まれる。)
講演会	①大木聖子先生によるSF防災授業(会場 赤小)後の指導。 ②大木聖子先生による地域等と合同の講演会実施。	○防災講演会の実施 (講師 検討中)

4. 課題と改善の方向性

第8回推進委員会(2月19日)では来年度の方向性について、以下について確認した。

- (1)今年度の成果をさらに深化させていくため、実施回数及び分科会の形を発展的に見直す。
- (2)27年度は新たに以下の2点について交流を深めていくこと。

- ①学習面における「中 1 ギャップ」の解消と、小中のさらに円滑な教科指導の連携を図るため、対象となる学年を「小6」と「中 1」とし、研究授業を通して検証していく。
- ②「サブファミリー交流週間」の設置(年2回)を通し、児童・生徒の日常の様子を相互観察し小中連携の強化を図る。

桐ヶ丘中サブファミリー

(桐ヶ丘中・桐ヶ丘郷小・袋小・八幡小・赤羽台西小・ふくろ幼)

1. 交流・連携の方向性

9年間の学びを終えたとき、一人一人が自信をもって社会に巣立つ。何事にも意欲的に取り組み、自己有用感もてる幼児・児童・生徒を育てる。各教科・領域による共同授業に積極的に取り組み、幼小中の円滑な接続に努める。

2. 具体的な活動

(1) 調整や話し合い

年度当初、運営委員会において、今年度の活動の方向性を確認。3回の学校ファミリーの日に、1回目は桐ヶ丘中学校で公開授業、2、3回目は小学校2校で共同授業を実施し、それぞれを参観し協議会を行う。

教科による連携

7月18日(金) 15:00～ 共同授業に向けての打合せ会 赤西小、八幡小
12月25日(木) 15:00～ 共同授業に向けての打合せ会 桐郷小、袋小

(2) サブファミリー全体での活動

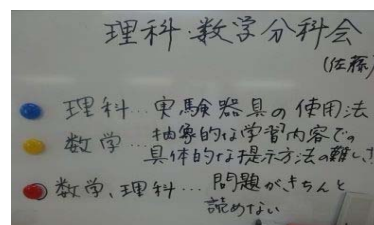
① 桐ヶ丘中学校 6月25日(水)

全クラス、全教科、道徳の授業実践を公開した。各分科会(理・数、技家・美・生活、道徳、音楽、国・社・外国語、体育)から、ホワイトボードで全体発表をおこなった。

(一部抜粋)

理科・数学分科会

- ・理科…実験器具の使用法
- ・数学…抽象的な学習内容での具体的な提示方法の難しさ
- ・数学・理科…問題がきちんと読めない



② 八幡小学校 9月10日(水)

【数学分科会】「形が同じで大きさがちがう図形を調べよう」第6学年

直接には測れない長さを求める方法を考える。縮図を描き実際の長さを求める。

【道徳】「2-(2) 身近にいる幼い人や高齢者に温かい心で接し親切にする」第1学年

自分よりも弱い相手に意地悪をしていたおおかみが、自分よりも強いくまに親切にされたときの気持ち話し合うことを通して、友達や自分よりも幼い者に対して、温かい心で接し、親切にしようとする心情を育てる。

③ 赤羽台西小学校 9月10日(水)

【国語】「ほんはともだち」第1学年

「11ぴきのねことへんなねこ／おべんとう」アニメーションを通して読書の楽しさをより深く味わう。

【体育】陸上運動 「短距離走・リレー」第6学年

次走者にバトンを渡すために、最後まで全力で走り切る。自分の課題に合った練習方法を選び、課題の解決に向けて取り組む。

【図画工作】「〇〇のすてきなぼうし」第3学年

すてきなぼうしを想像して描く。自分の思いに合わせて紙や画材、素材を選びながら描いていく。

【道徳】「みんなのきまり 4－(1)規則尊重・公德心」第4学年

T1：小学校教諭、T2：中学校理科

きまりや規則は、厳守することが基本である。改めてきまりや規則のもつ意義について十分に理解することが大切である。

④ 袋小学校 1月21日(水)

【図画工作】「2015 今」第6学年 T1：小学校教諭、T2：中学校美術

包帯石膏で手型をとる、コラージュの手法で作品をつくる。自分と向き合うことになるので、自分らしい作品になるのではと考える。

⑤ 桐ヶ丘郷小学校 平成27年1月21日(水)

【外国語活動】動作「歩きましょう」

Walk. Run. Stop. Turn around. Turn left. Turn right. 第2学年

T1：小学校教諭、T2：中学校英語科

動作の表現に慣れ親しむ。動作の表現を用いて積極的にコミュニケーションをする。

【道徳】「みんな友だち」2－(3)友情・信頼、助け合い 第3学年

友だちの気持ちを考えようとする登場人物の心情の変化や行動に目を向けることを通して、友だちと互いに理解し合い、友だちを大切にしようとする心情を育てる。

【音楽】♪音の重なりを感じ取ろう♪「ファランドール」「茶色の小びん」第4学年

T1：小学校教諭、T2：中学校音楽科

「茶色の小びん」の副次的な旋律と、和音、低音、リズムのパートを演奏。主旋律と副次的な旋律、和音、低音の重なりを感じて、演奏する。

【学級活動】「長(おさ)会議をしよう」

～問題点を共有して解決策を話し合い、より良い班やクラスにしよう～ 第6学年

T1：小学校教諭、T2：中学校英語科

問題点を共有して解決策を話し合い、今後の学校・学級生活に生かす

3. 成果と工夫した点

- ① 中学校での分科会において、ホワイトボードを使用してまとめ、発表を行った。
- ② 各小学校において、小・中教員によるTTの授業を実践した。2校同時に同じ日に行い、各自ねらいに応じて参観授業を選択し協議会に参加した。
- ③ 小中で道徳の時間を設定し、一貫した道徳教育の充実を図った。「桐ヶ丘心の教育ネットワーク」として「桐ヶ丘子ども憲章」を作成し実践した。

4. 課題と改善の方向性

- ① ホワイトボードを使用、発表を行ったが、短く簡潔な発表を目指す必要がある。
- ② TTによる授業実践を行い、中学校への円滑な連携を進めることができた。ファミリーとして、地域の特色や子どもたちの特性を生かすとともに、児童・生徒の情報交換等を密にして小中一貫教育を推進する。

神谷中サブファミリー（神谷中・神谷小・稲田小）

1. 交流・連携の方向性

- (1) 「交流・連携」から「一貫」へ、義務教育9年間の学びの連続性や校種の特徴を生かした「小中一貫教育」に着実に取り組む。【学びのスタンダードの構築】
- (2) 授業研究のための分科会に加えて、今後の事業の新たな展開に向けた検討を行うために「三部会」を設置して、分科会と同様に全教員がいずれかに所属する。
【生活指導部会】【ファミリー行事検討部会】【研究推進部会】
- (3) 小中学校の教員間の交流を活発にして、教員相互の信頼関係を深めるとともに、言語活動の充実をテーマにした指導案の検討を通して、教員の授業力向上を図る。
- (4) 各小中学校の特色を相互理解し、学校行事やその他の交流を推進する。また、児童・生徒の相互理解を深めるとともに、中学校進学への不安感を除く。

2. 具体的な活動

(1) 調整や話し合い

- ① 4月15日（火）「小中一貫管理職打合せ」午後3時30分～5時00分（神谷中）
- ② 8月29日（金）「三部会」午後2時30分～4時00分 及び
「小中一貫管理職打合せ」4時10分～5時00分（神谷中）
- ③ 10月7日（水）「SF標語展最終審査会」午後4時00分～5時00分（神谷中）
- ④ 12月2日（火）「小中一貫分科会（百人一首）」午後3時40分～4時10分 及び
「SF推進委員会」4時15分～5時00分（神谷小）
- ⑤ 1月9日（金）「小中一貫学力向上部会」午後4時30分～5時15分（稲田小）
- ⑥ 1月26日（月）「SF年間予定打合せ」午後3時30分～4時15分（神谷小）

(2) サブファミリー全体での活動

- ① 4月28日（月）「小中一貫教育全体会」
神谷中学校会場 午後3時30分～4時10分
- ② 6月13日（金）「小中一貫指導案検討会（分科会）」
神谷小学校会場 午後3時45分～4時30分
- ③ 6月25日（水）「北区学校ファミリーの日 研究授業・全体会」
神谷小学校会場 午後1時40分～4時00分
・講師 鈴木 裕二 指導主事（東京都教職員研修センター）
- ④ 7月14日（月）「サブファミリー連絡協議会」
神谷中学校会場 午後4時30分～5時30分
・各校の生活指導・現況報告・情報交換
・各校の夏季休業日前生活指導プリント等の説明、赤羽警察署より情報提供
- ⑤ 夏季休業中「中学校部活動体験入部」
・神谷中の運動部・文化部が神谷小・稲田小の希望児童の体験入部を実施
- ⑥ 8月29日（金）「小中一貫指導案検討会（分科会）」
神谷中学校会場 午後1時10分～2時20分

⑦ 9月10日（水）「北区学校ファミリーの日 研究授業・研究協議会・全体会」

神谷中学校会場 午後1時30分～4時15分

- ・講師 室木 忠雄 先生（足立区立栗島中学校前校長）
井上 貴雅 先生（北区立赤羽岩淵中学校長）
安部 貴史 統括指導主事（東京都教職員研修センター）

⑧ 「サブファミリー標語展」

- ・「命」「愛」「人権」「あいさつ」をテーマに児童・生徒から標語を募集
- ・10月に最優秀作品10点を審査し、ポスターを作成
- ・校内及び地域の町会・自治会の掲示板にて展示

⑨ 10月7日（火）「神谷中学校新入生体験入学」

神谷中学校会場 午後1時20分～4時00分

- ・学校紹介・体験授業・部活動体験

⑩ 10月25日（土）「文化祭交流」

神谷中学校会場 午前9時15分～10時55分

- ・5年生児童が中学校の合唱コンクールを鑑賞

⑪ 1月9日（金）「小中一貫指導案検討会（分科会）」

稲田小学校会場 午後3時45分～4時30分

⑫ 1月21日（水）「北区学校ファミリーの日 研究授業・研究協議会・全体会」

稲田小学校会場 午後1時30分～4時15分

- ・講師 志村 雅巳 指導主事（東京都教職員研修センター） 他

⑬ 1月26日（月）「百人一首大会」

神谷小学校会場 午後1時30分～3時00分

- ・中学校1年生と小学校4年生との合同交流戦を実施



新入生体験入学

3. 成果と工夫した点

- (1) 「三部会」を立ち上げ、次年度以降に向けたサブファミリーの実施方策について、具体的な個々の事案の検討を進めることができた。
- (2) 小中三校の「学校公開週間」についての日程・時間割予定を共有し、それぞれの公開週間において、3校の教員が相互に授業を参観し合うシステムを取り入れた。
- (3) 学校ファミリーの日を核とした小中一貫の授業研究は、「指導案検討会」を経て実施する方法が定着し、小中の教員が研鑽を深め合うことができた。

4. 課題と改善の方向性

- (1) サブファミリー3校合同による防災教育の充実を図る。具体的には、「3校同時引き渡し訓練」及び「SF総合防災訓練（防災体験学習）」を着実に実施する。
- (2) 中学校で実施してきた「農業体験学習」の主軸である「稲作」に関する学習について、小中合同での実施を実現する。
- (3) 「文化祭交流」や中学校「ノーチャイム」の実施方法についての検討を継続する。
- (4) 今年度は、種々の改善を図ったため、年間計画が度々変更された。次年度以降はより計画的な運営が期待される。

浮間中サブファミリー（浮間中・浮間小・西浮間小）

1 交流・連携の方向性

浮間中サブファミリーでは、今年度、新たに研究主題を「自ら考え、判断し、主体的に学習する子どもの育成」とし、連絡会や研究授業、合同研修会、交流活動に取り組んできた。特に今年度は「つまずき解消0プラン 小中一貫学力向上シート」の作成・実施を通して、これまでの取り組みを継続しつつ、特に学習に関して、小中の学びの連続性を重視した連携を推進した。

(1) 「学校ファミリーの日」を活用した教員の合同研修を通して、学校ファミリーとしての小中一貫教育の方向性を探り、実践していく。

「公開授業」「全体協議会・分科会」「中1ギャップ連絡会」等を行う。

(2) 子どもたちがより高い目標や理想に向かって向上しようとする態度を育成するため児童・生徒の交流の機会を設定する。

児童と生徒が合同で行う「音楽交流」「地域清掃ボランティア」等を行う。

(3) 学校行事の連携を推進するため、3校の行事の確認と内容を検討し、お互いの学校の状況が見えるようにする。

「新入生体験入学」「文化祭参加」「音楽発表会参加」「作品交流」等を行う。

2 具体的な活動

(1) 調整や話し合い

- ① 運営委員会による方針・目標等の決定
- ② 副校長による内容・方法等の検討
- ③ 教務主任による日程・内容等の調整
- ④ 担当者による内容の打ち合わせ

(2) サブファミリー全体での活動

① 合同研修会・公開授業

年3回の「学校ファミリーの日」に、浮間小学校・西浮間小学校・浮間中学校において、それぞれ公開授業と全体会及び分科会別の協議会を行った。

6月には、浮間小学校の全学級の公開授業を行い、その後、分科会に別れ、授業の感想や意見交換、小中一貫教育の方向性についての話し合いを行った。

9月は、浮間中学校の全学級の授業をQU調査に基づく学習指導案をもとに、浮間小学校と西浮間小学校の全教員が参観し、同様の流れで研究協議等を実施した。

1月は、西浮間小学校で全教科及び道徳の授業を実施し、公開授業の後、同様に分科会での話し合いが行われ、中学校でできること、小学校でできること等について、具体的な話し合いを行うことができた。

② 中一ギャップ連絡会

「学校ファミリーの日」の分科会終了後、「中一ギャップ連絡会」を行った。6月と9月は小学校旧6年生担任と中学校1年生担任が、1月には小学校6年生担任と中学校3年生担任が、管理職も含めて子どもたちの様子に関して情報交換を行った。特に1月の連絡会においては、「つまずき解消ゼロプラン」をもとにして、今後の学力向上や指導の連続性についての取り組みや方策について話し合いがもたれた。

③ 新入生体験入学

昨年度に引き続き新入生体験入学は、授業体験と部活動見学を主体に行った。今年度も両校の6年生全員に8教科10コースの授業の体験学習を組み入れ実施した。事前に3校の教務主任・学年主任が連絡を取り合い、児童の希望によるグループ分けを行い、授業に参加させた。児童は緊張しながらも楽しそうに参加し、中学校教諭も、小学生に興味をもってもらえる授業を実施するために、授業内容の工夫や教材づくりを行うなど、お互いに刺激になるよい企画となった。

④ 文化行事交流

浮間中学校の文化祭の展示部門に、小学校の作品展示コーナーを設けた。さらに、浮間小学校の代表児童による合唱も披露された。小学生が中学校の舞台上で自分たちの歌を披露したことはたいへんよい刺激になったようだ。また、中学生にとっても将来の後輩の素晴らしい歌声におおいに刺激を受けた様子であった。また、浮間中学校の吹奏楽部の生徒が、西浮間小学校の音楽集会に参加して演奏し、児童との交流を深めた。

⑤ 地域ボランティアでの取り組み

8月29日（金）に、例年恒例となった浮間地区の清掃活動を予定した。しかし、当日は朝からあいにくの雨天だったため、児童の安全面を配慮し今年度の取り組みは中止とした。今後の取り組み方法の改善については、3校PTA連絡協議会で検討した。

⑥ 伝統文化子供茶道教室の取り組み

指導者のもと浮間中学校茶道部の生徒の協力により、浮間地区の小学生に土曜日に子供茶道教室を実施している。小中学生の交流の場にもなり、健全育成の視点からも有意義な活動となっている。



3 成果と工夫した点

- (1) 合同研修会や、授業参観、小学生への授業実施を通して、学習指導・児童・生徒理解・教室環境づくりなど、教員にとって多くのことを学ぶよい機会となった。
- (2) 各校の行事の確認と内容の検討をする中で、互いの学校の状況がよく見えるようになった。
- (3) 区のスクールカウンセラーを講師に、地域や就学前の幼児のいる保護者等にも広く呼びかけ、西浮間小学校において3校合同での「浮間セミナー」を開催した。
- (4) 学校ファミリーの日を中心に3校の活動をさらに活性化させることができた。
- (5) 本年度も、北区で作成された小中一貫カリキュラムを踏まえての研究授業を実施した。学力向上に視点を置いた授業研究を実施することができた。

4 課題と改善の方向性

- (1) 行事等の交流についても、さらなる連携の可能性を探っていき、小中一貫教育に視点を当てた取り組みを実施していきたい。
- (2) サブファミリーとして、地域の特色や子どもたちの特性を踏まえた本質的な「連携」を目指して今後も、地域とともに取り組む視点をもった実践を重ねていく。

田端中サブファミリー（田端中・田端小・滝野川第四小）

1. 交流・連携の方向性

- (1) 地区全体の教育力を高めるため、学校・家庭・地域の協力体制を確立し、豊かな心、健やかな体、確かな学力を育てる活動を推進し、児童・生徒の健全育成を図る。
- (2) 中一ギャップ解消のために、小学校で学んできた学習や活動を中学校でも継続・発展させ、9年間の教育の接続を目指す。
- (3) 学校文化の異なる多様な人間関係を学び、狭い仲間意識を克服し、自己実現を目指して広い視野やたくましい心を身に付けるように努める。
- (4) 11月に行われる「田端学びの郷・オープンスクール」において、サブファミリー校の児童・生徒、地域の人たちが一緒になって、その道の一流の先生から学び合う総合学習を行う。
- (5) 年3回の学校ファミリーの日には、サブファミリー3校のすべての教員が授業を参観し合い、小・中学校9年間の一貫した教育を見通し、田端中サブファミリー校で目指す子供像や各校の教育実践を紹介・確認し合う。

2. 具体的な活動

(1) 調整や話し合い

① 3校の副校長・教務主任との打合せ(オープンスクール運営委員会)

○5月8日(水) 田端中学校 15:30より

- ・26年度各校の行事予定
- ・学校ファミリーの日合同研修の日程、会場校、主な内容の確認
- ・オープンスクールの実施案と担当校等の検討

○1月30日(金) 田端中学校 16:15より

- ・27年度の各校行事予定の照らし合わせ
- ・学校ファミリーの日合同研修の日程と担当校及び分科会の検討
- ・オープンスクールの日程と実施方法の検討、調整

(2) サブファミリー全体での活動

① 田端中サブファミリー合同研修会

分科会テーマ「小中一貫教育を視野に入れた教科における連携を探る」

分科会(国語部会、社会部会、算数・数学部会、理科部会、外国語活動・英語部会、健康教育・心の教育部会、芸術部会)

○第1回田端中サブファミリー合同研修会(学校ファミリーの日)

実施日:6月25日(水) 会場:滝野川第四小学校

内容:全学級授業公開(国語、社会、算数、理科、外国語活動、体育、図工、生活)

全体会(田端中サブファミリーの取り組みについて、オープンスクールについて)

分科会別協議(7分科会)

○第2回田端中サブファミリー合同研修会

実施日:8月27日(水) 会場:滝野川第四小学校

内容:外国語活動研修会 講師:片山知子先生(北区外国語アドバイザー)

- ・児童の意欲を高めるコミュニケーション活動の工夫
- ・授業で使える活動例及び指導のアイデアの紹介

・事前に寄せられた各小学校教師からの質問への回答

○第3回田端中サブファミリー合同研修会

実施日:9月10日(水)(学校ファミリーの日)

会場:田端小学校

内容:全学級授業公開(国語、社会、算数、
理科、国語活動、音楽、図工、道徳)

分科会別協議(7分科会)

全体会(各分科会よりの報告、指導・講評)



○第4回田端中サブファミリー合同研修会

実施日:1月21日(水)(学校ファミリーの日) 会場:田端中学校

内容:全学級授業公開(国語、社会、数学、理科、英語、音楽、技術)

分科会別協議(7分科会)、全体会(各分科会よりの報告、指導・講評)

② 田端学びの郷・オープンスクール

実施日:10月31日(金)・11月7日(金)・14日(金) 13:30~15:00

会場:田端中学校・滝野川第四小学校、田端文士村記念館

参加者(各回):小学生89名(6年生)、中学生230名(全学年)、地域の方1名、
講師20名

内容:陶芸、茶道、華道、アレンジ生け花

東京手描友禅、紋切り遊び、介護福祉

調理、写真、文士村研究、そろばん、パソコン

浴衣着付けと着物の話、マジック、フラダンス

ペタンク、防災・救命、モノ作り、動物と生命

以上、19講座を設け、1講座20名程度で実施。



③ 「つまずきゼロプラン」小中一貫学力向上部会

実施日:12月18日(木) 16:00~16:45 会場:田端中学校

参加者:北区教育委員会 サブファミリー担当指導主事及び教育指導員

各小学校の第6学年担当教員各校1名、田端中学校副校長・教務主任

内容:北区基礎・基本調査で明らかになった中学校1学年の課題を、田端中学校教師が第6学年の教員とともに解消する取組みを推進する。

3. 成果と工夫した点

(1) オープンスクールでは、19講座のうち田端中学校が16講座、小学校が3講座を担当し、協力して実施することができた。地域の教育力を生かした特色ある教育活動をさらに進め、児童・生徒の学ぶ意欲を高めたり、地域の方との交流を深めたりすることができた。

(2) 「つまずきゼロプラン」により、学力面での中一ギャップへの防止・対応のきっかけとなり、小中一貫カリキュラムを基礎学力定着・向上の視点から見直す機会となった。

4. 課題と改善の方向性

(1) オープンスクールを土曜日に実施し、保護者や地域の方々へ取り組みを知らせていく。

(2) 小中一貫カリキュラムを更に活用し、9年間の学習段階に応じた指導力を身に付ける。特に、かけ算九九の暗唱や繰り上がりや繰り下がりのある計算等、「つまずきゼロプラン」で出た課題を、小学校6年生だけでなく小学校全学年でフィードバックしていく。

滝紅中サブファミリー（滝野川紅葉中・滝野川第二小・滝野川第三小・ 滝野川第六小、谷端小・紅葉小・たきさん幼稚園）

1. 連携の方向性

- ・サブファミリー6校1園で児童・生徒の健全育成及び授業改善推進に向けた取組を行う。
- ・教科ごとによる授業交流と情報交換等を行い、中1ギャップの解消と教員同士の連携を深める活動を行う。
- ・伝統野菜の「滝野川ごぼう」等の栽培や標語の作成など、地域に誇りをもつ活動及び地域とかがわる活動を行う。
- ・小中一貫教育に向けた具体的な取組を行う。



2. 具体的な活動

(1) 調整や話し合い

- ・年度初めに6校1園の校長で、昨年度末に作成された本年度のサブファミリー活動計画、年間指導計画について、確認を行うとともに今後の方向性を定めた。
- ・6月に各校の校長・副校長・主幹教諭が集まり、サブファミリー運営委員会を実施、部会の組織、運営方法、構成員の確認等を行った。
- ・教務主任・生活指導主任は随時連絡を取合い、方針の共通理解、日程調整等を行った。
- ・2月に校長会、副校長打ち合わせ会で、次年度の方向性を検討した。

(2) ファミリー全体での活動

- ①幼小「思いやり」中「絆」をテーマに標語を募集し、審査後、関係各所に掲示した。
- ②授業交流は、中3・小6、中2・小5、中1・小4、小1・小2・幼稚園、特別支援学級グループの5分科会で、「コミュニケーション能力の育成」を研究テーマに実施した。
 - ・6月25日は、滝野川紅葉中学校14クラスの授業参観及び分科会別研究協議会を行った。
 - ・9月10日に滝野川第三小学校、1月21日は滝野川第六小学校で、分科会ごとに、授業研究及び協議会を行った。第3回目には、全体会を通して、成果と課題を確認した。この2回の研究授業では、事前検討会を8月28日、1月9日にそれぞれ行った。
- ③「滝野川ごぼう」等の栽培
 - ・地域の方々と連携し、子どもたちの活動を支援できる体制を作った。
 - ・「地場野菜」の「滝野川ごぼう」について、子ども



もたちが自分たちで「育てる」活動を通じて食育につなげた。

- ・前年度冬の「土作り」から4月の「種まき」「水やり」「草取り」「収穫」と1年間にわたって関わり続けることや「ごぼう給食」をいただいて、感謝の気持ちを育成した。

④体験入学

- ・9月にサブファミリーの小学6年生を対象に新入生体験入学を、11月に中学校の部活動体験を実施した。

⑤六校連キンボール大会

10月19日（日）、滝野川紅葉中学校体育館の明るく温かい雰囲気の中、北区地域スポーツ推進委員のみなさんのご協力により、熱戦が繰り広げられた。

⑥クリーンキャンペーン

- ・学校の周りの清掃をしたり、地域に児童作成のポスターを掲示したりすることで、自分たちのまちの美化を意識するだけでなく、地域へのアピールにもつながった。PTAの方々の協力もあった。



3 成果と工夫した点

- ・小1・小2・幼稚園グループは、子どもの年齢が近かったため、教員の活発な意見交換ができた。研究のテーマに沿って発達の違いに応じたコミュニケーションの育成についての研究が深まった。
- ・4月に実施した北区基礎・基本の定着度調査の1学年国語、算数、理科、社会の結果を基に、「つまずきゼロプランシート」を活用して、学力向上の手だてを確認できた。
- ・中3・小6グループでは、「話形」について、各小学校から日常で使っているものを持ち寄り、小学校間での情報交換ができた。また、中学校の教員は、「話形」の言葉を初めて知り、小中で相互理解が深まった。

4 課題と改善の方向性

- ・教科が固定していなかったため、様々な教科、領域について幅広く研究授業が行なわれた。そのため、広く浅くなってしまい、深く掘り下げることができなかった。
- ・分科会の人数が多かったため、協議会での話し合いが表面的に終わってしまった。
- ・「コミュニケーション能力の育成」という意識が低かった。互いの意見がかみ合わず、本音が出にくかった。
- ・来年度も、研究テーマを「コミュニケーション能力の育成」とし、継続研究していく。
- ・分科会は、教科の専門性を重視した教科連携型に変更する。①国語 ②社会 ③算数・数学 ④理科 ⑤外国語活動・英語 ⑥体育・保健体育 ⑦音楽、図工・美術、技術・家庭（栄養士を含む）（幼稚園グループ、特別支援学級グループもいずれかの分科会に所属する）の7分科会とする。

飛鳥中サブファミリー(飛鳥中・滝野川小・西ヶ原小)

1 連携・交流の方向性

これまでの継続した基礎学力向上、児童・生徒交流を2つの柱として、小・中連携教育の推進を充実する。

2 育てたい子供像

- 1 意欲的に学習に取り組み、自ら学力を伸ばす子供
- 2 自分のよさを知り、他者を思いやり協力し合う子供
- 3 明るく元気に進んで運動する子供
- 4 地域に生き、地域を愛し、地域を支える子供



3 具体的な活動

(1) 全体会

- ① 5月 1日(木) 全体会・打ち合せ会 飛鳥中学校 15時～
- ② 9月10日(水) 公開授業(全学級) 滝野川小学校 14時～
- ③ 12月20日(土) 研究発表会(全教科・道徳) 飛鳥中学校 13時30分～
- ④ 1月21日(水) 道徳授業地区公開講座 西ヶ原小学校 13時30分～

(2) 分科会の具体的な取り組み



[基礎学力向上]

① 算数・数学

小学校の少人数担当が中学1年数学授業にT・Tで参加。

小中合同で指導案を検討し、中学校・数学科が小学校の公開授業に参加。

中学3年生が小学校6年生の算数の授業に参加。

② 理科

博物館見学を行う。

合同の実技研修会を実施(水溶液の性質、ガスバーナー)

③ 外国語活動・英語

小学校・中学校の外国語活動担当・英語科教員が相互に授業を参観・研修会を行う。

小中の円滑な連携について、ALTの活用などの具体的な内容について協議・検討。

④ 道徳

西ヶ原小の道徳授業地区公開講座に3校の教員全員が参観し、3つの分科会で研究協議。

全体で地域・保護者の方と意見交換会。(1月)

[児童・生徒交流]

① 保健

飛鳥中の保健委員会の生徒が、滝野川小・西ヶ原小で保健「たばこの害」についての発表会。(10月・11月)

② 家庭科

3校で児童・生徒の作品を巡回して、校内に掲示して作品の交流。

③ 図工・美術

3校で児童・生徒の作品を巡回して、校内に掲示して作品の交流。

④ 書写

各校で書き初めを展示

3校で児童・生徒の作品を巡回して、校内に掲示して作品の交流。

⑤ 運動会交流・参加

飛鳥中運動会に西ヶ原小4・5年生有志がダンスの演技を披露。(5月)

西ヶ原小運動会に飛鳥中の吹奏楽部がマーチングを披露。(9月)

⑥ 合唱交流・参加

飛鳥中・滝野川小・西ヶ原小の西ヶ原小体育館で合唱交流。(3月)

合同合唱 曲名「夢の世界を」

⑦ 陸上記録会練習交流

飛鳥中陸上部の生徒が中心となり、小学校陸上記録会にむけて

滝野川小・西ヶ原小の6年生との合同練習会。(10月)

⑧ 部活動交流

飛鳥中での新入生体験入学で、各部活動へ体験入部の交流。(11月)

4 成果と工夫した点

3校が年間計画の限られた時間の中で「何ができるか」「何が効果的か」を真剣に考え、各分科会の責任者が中心となり、連絡・調整したことにより効果的な活動が継続的に実施できた。

5 課題と改善の方向性

- (1) 小学校と中学校の時程の違い、カリキュラムの違いにより、特に、小中交流活動において、時間の調整をしながらフットワークよく実施していく。
- (2) 基礎学力向上では、滝野川小と西ヶ原小の研究を基礎として、飛鳥中学校で全教科・道徳において「問題解決型の授業」を活用した主体的な学習能力の向上をテーマとして、3年目の研究発表会を実施した。
- (3) 各分科会での活動について、内容を深めながら継続するとともに、新たに交流できることを計画する。
- (4) SFに配置されている学校図書館指導員(学校司書)を活用して、学校図書館の整備を行い、読書活動や言語活動の一層の充実を図る。

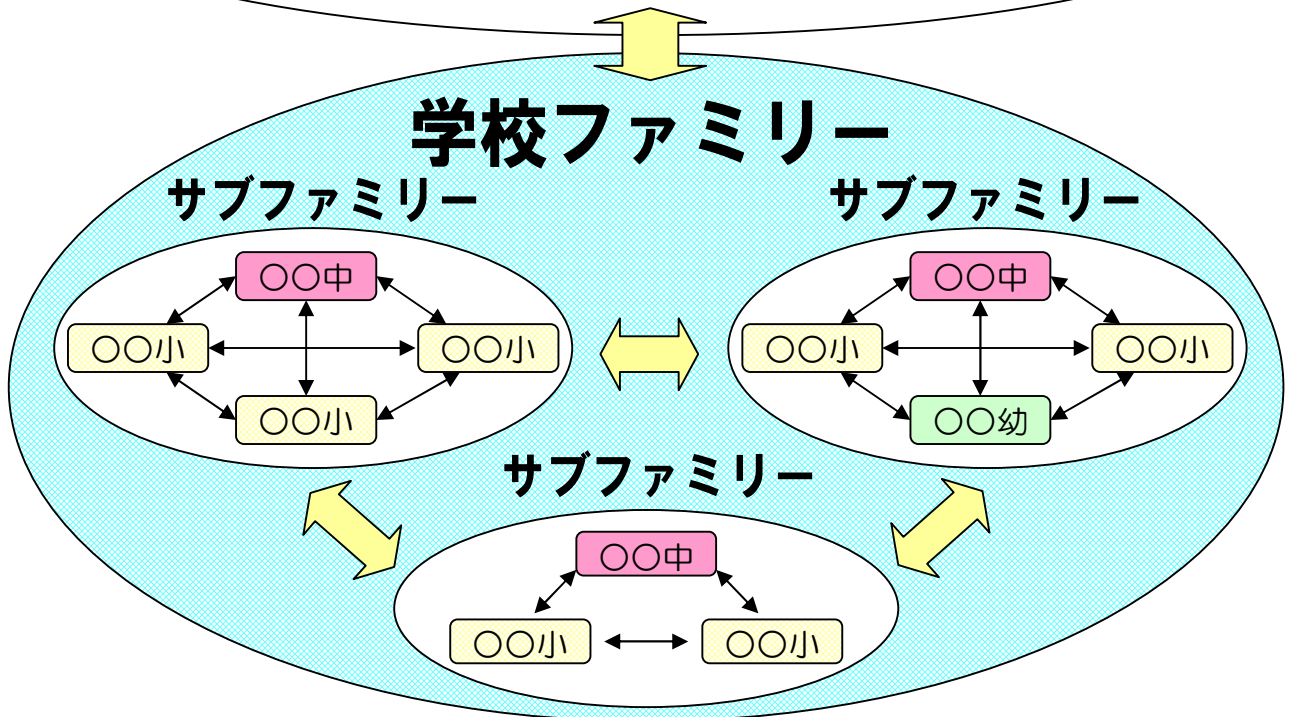
北区学校ファミリー構想概要

1 北区学校ファミリーとは

北区学校ファミリーとは、中学校1校といくつかの小学校・幼稚園からなる近隣複数校のネットワークです。そして、1校だけではできないことを複数校が協力して実践し、質の高い教育を実現しようというものです。（下イメージ図参照）

《学校関係者・地域の関係諸機関との連携・協力》

- 町会・自治会、青少年地区委員会、児童委員、地域振興室 など
- 高校、大学・大学院、図書館 など
- 児童館、保育園、福祉保健センター、教育相談所、児童相談所 など
- 警察署、消防署、高齢者施設 など
- 教育ボランティア、ボランティア団体、民間活動団体 など



「北区学校ファミリー構想」は、次のような状況を踏まえて平成15年6月に策定されました。

教育課題

- ・ 子どもたちの学習意欲や学力の低下への懸念、生活習慣の変化により直接体験・生活経験の減少、人とかかわる力が低下、体力の低下、中学生・高校生では読書時間の減少
- ・ 地域社会の連帯感の弱まり、就労状況の変化、核家族化により、子育て自体に困難さを生じている



学校の小規模化の中では、個々の学校が単独で新しい様々な課題に対応するには限界

改善策

- ・ 地域の学校として同校種間の連携や異校種間の連携・接続、地域の教育資源の活用方法などに工夫・改善を加えた、北区の新しい教育を推進していく

2 北区学校ファミリーのねらい

①自己革新し続ける新しい学校づくりをめざします

各学校が「開かれた」存在へと変化し、さまざまな外部機関や他校と「結ぶ」柔軟性をもち、教職員、保護者、地域住民も「ともに学び合う」という体制をつくります。そして、常に新しい教育課題に挑戦し、自己革新し続ける新しい学校づくりを目指します。

②子どもたちの教育環境を整備します

学校の基盤となる「地域」の拡大を図り、その利点を生かして子どもたちの学びをより豊かなものとしめます。

③地域の教育・子育てプログラム全体の改善・充実を図ります

学校間のネットワークだけでなく、学校と幼稚園、保育園、児童館などとの連携や学校と家庭・地域社会との幅広い連携を生み出し、広域的な地域エリアのなかに、教育・子育てのネットワークを築き上げます。

3 学校間連携による5つの効果

①教育課程の面

- ・ 共同のカリキュラム開発、多様な学習活動
- ・ 地域情報の共有、地域に根ざしたプログラム開発

②学校運営の面

- ・ 学校間の組織的な連携
- ・ 指導体制の充実（小規模化の中で学校の教育力の維持）

③子どもの学びの面

- ・ 基礎的、基本的な事項の確実な定着
- ・ 就学前教育の充実による小学校入学に対する不安の解消
- ・ 小中の交流による相互理解
- ・ 小学校高学年の中学校進学に対する不安の解消

④教員の資質向上の面

- ・ 子どもや地域の実態に応じた教員研修の実施
- ・ 授業交流や合同研修会による異校種の学習内容、指導法についての共通理解
- ・ 小中9年間を意識した的確な子どもへの援助・指導

⑤健全育成の面

- ・ 広い地域での見取り、情報収集力が高まり、関係機関との連携による質の高い対応
- ・ 保護者や地域との信頼関係の深まり

4 具体的活動

学校ファミリーによる学校間連携の内容は次の8項目になります。

- ①情報交換
- ②授業交流（幼稚園、小学校、中学校）
- ③教員研修の合同実施
- ④共同の教育課程（カリキュラム）の開発
- ⑤学校運営面での連携・協力
- ⑥学校行事での交流
- ⑦関係諸機関、地域の人との交流をもとにした教育活動の推進
- ⑧その他の連携・交流

各地域における取組みは、地域の課題などに応じてこれらのいくつかを選択するかたちになります。

サブファミリーの活動の様子



田端中 SF 小学校授業参観・合同研修会



王子桜中 SF 小中一貫（算数・数学）授業研究



桐ヶ丘中 SF 幼・小連携 TT 保育・授業



滝野川紅葉中 SF 滝野川ごぼうの栽培



飛鳥中 SF 小・中連携 TT 授業



神谷中 SF ワークショップ型研修

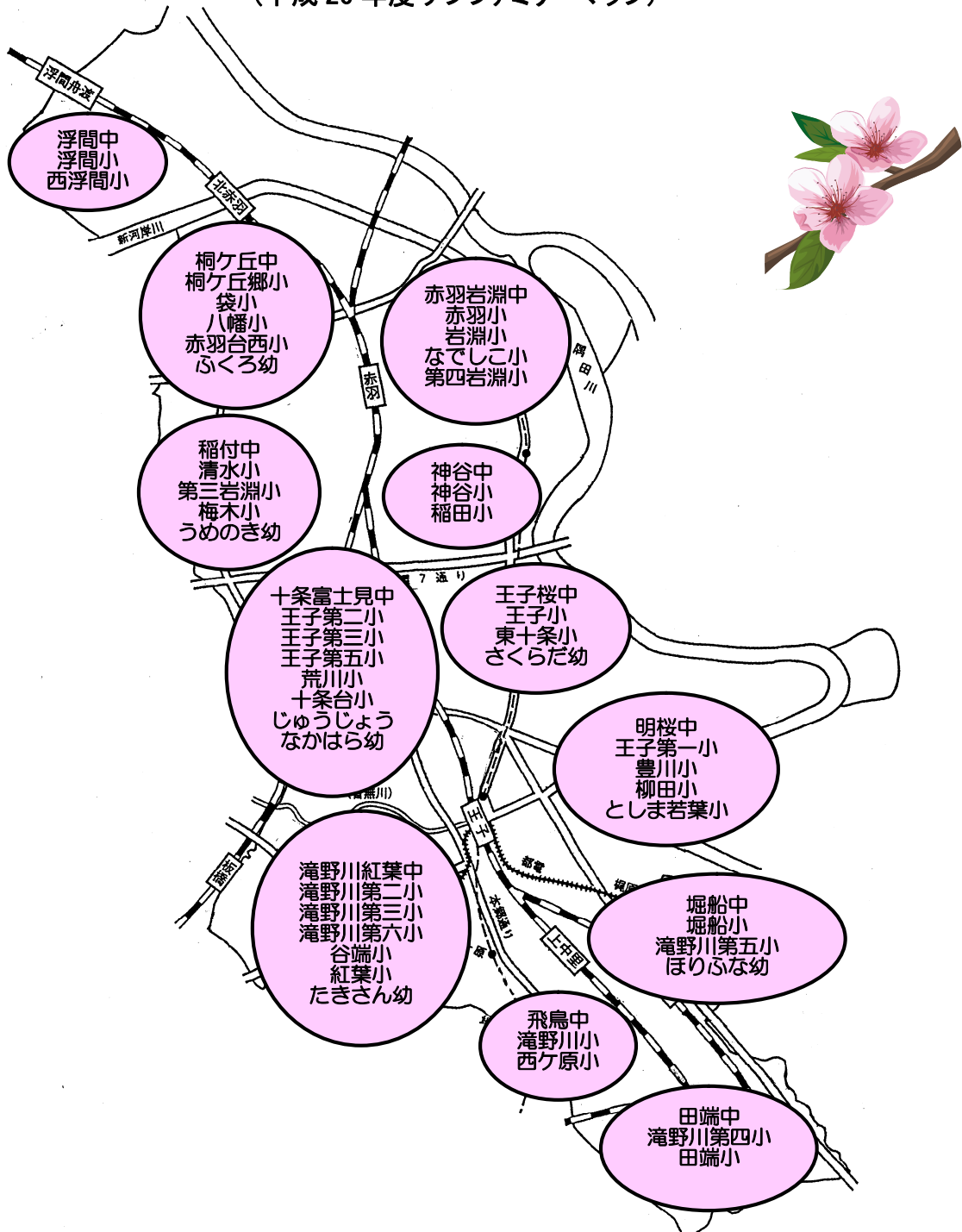
「北区学校ファミリーの日」について

北区独自の教育システムである北区学校ファミリーについての理解を深め、啓発を図るため、各学期に「北区学校ファミリーの日」を定め、各サブファミリーにおいて研究授業、授業交流、交流事業など、北区学校ファミリー事業を推進し、質の高い教育を目指します。

5 エリアの設定

学校ファミリーでは、中学校1校といくつかの小学校・幼稚園からなる組み合わせを「サブファミリー」と呼びます。

(平成26年度サブファミリーマップ)



6 今後の目標

学校ファミリーのねらいは、単に「学校改革」にとどまらず、「地域の再生・変革」にまでつながることが重要です。そのために、学校をより開かれた存在とすること、教育ボランティア導入など地域との連携の望ましい姿を研究して子どもの学びに生かすことを目標とします。

平成 26 年度北区学校ファミリー事業報告書

平成 27 年 3 月発行

発行 北区教育委員会事務局 教育政策課

東京都北区滝野川 2-52-10

電話 03-3908-9279

FAX 03-3908-1265

刊行物登録番号

26-1-170

